

ビール・「発泡酒・ビール風アルコール飲料」への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

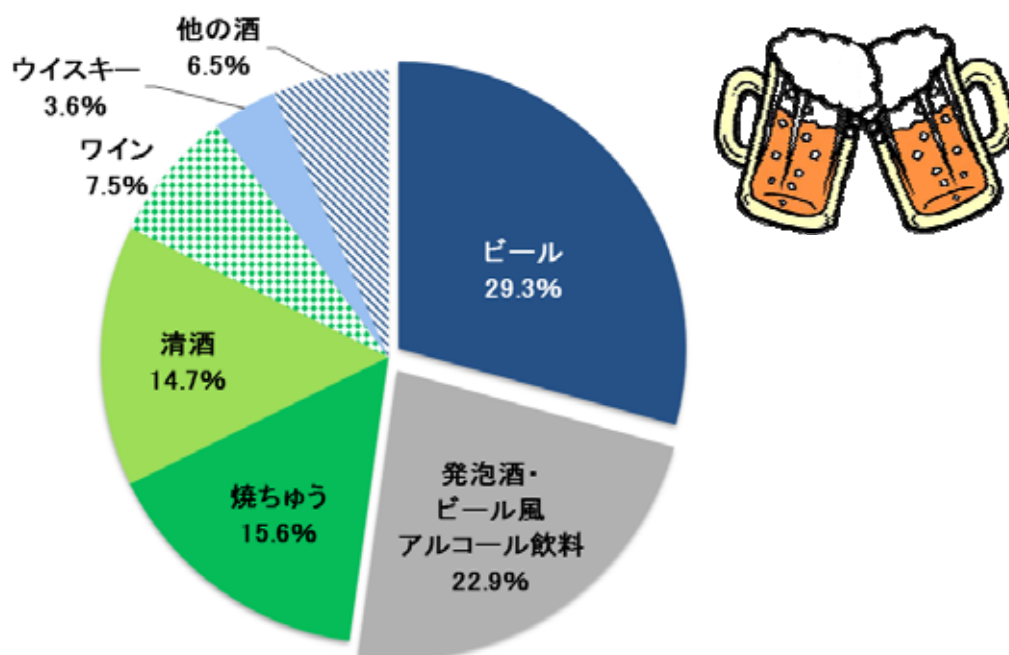
夏が近づき、気温も上がり、ビールなどのお酒がいっそう美味しく感じられる季節になってきました。そこで、今回は“ビール”と“発泡酒・ビール風アルコール飲料”への支出について、家計調査の結果から見てみましょう。

いわゆる第3のビールと呼ばれる飲料が含まれる、ビール風味のアルコール飲料のこと。

酒類の中で支出金額が最も多いのはビール！

まず、平成24年の酒類に占める品目別支出金額の構成比を見てみると、最も高いのはビール（29.3%）、続いて「発泡酒・ビール風アルコール飲料」（22.9%）、焼酎（15.6%）という順番になっています。特に、第1位のビールと第2位の「発泡酒・ビール風アルコール飲料」が酒類の支出金額全体の5割以上を占めていることがわかります（図1）。

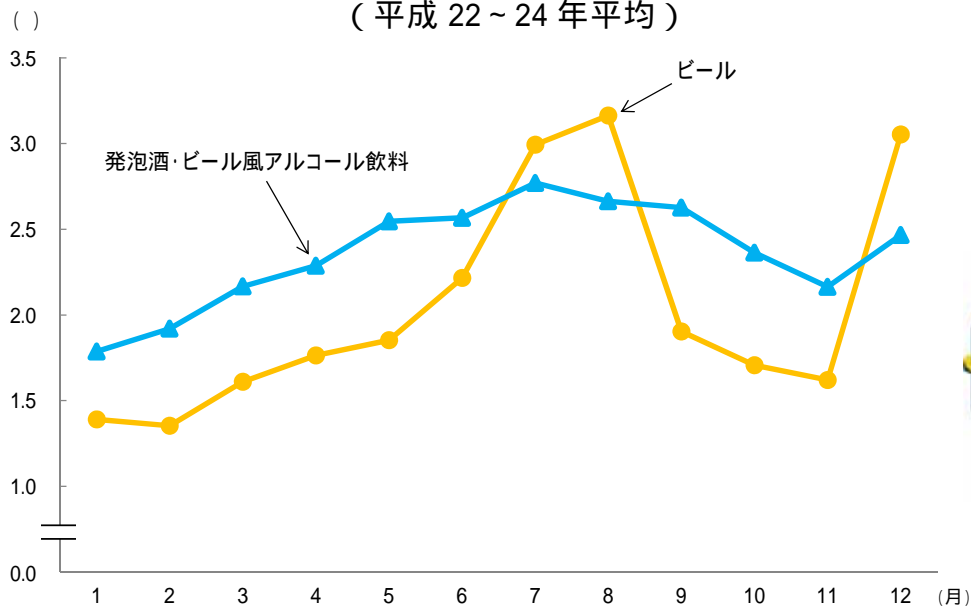
図1 酒類に占める品目別支出金額構成比（平成24年）



ビール及び「発泡酒・ビール風アルコール飲料」の購入量は、夏場に向けて増加

1世帯当たりの平均購入量を月別(平成22~24年平均)に見ると、ビール及び「発泡酒・ビール風アルコール飲料」は、夏場に向けて増加していることがわかります。特にビールは、7月、8月及び12月の購入量が多くなっており、「発泡酒・ビール風アルコール飲料」の購入量を上回っています。これはお中元やお歳暮のための購入などが増えるためとみられます(図2)。

図2 ビール及び「発泡酒・ビール風アルコール飲料」の月別購入量
(平成22~24年平均)



年齢が上がるにつれ、ビールの購入量は増加する傾向に

最後に、世帯主の年齢階級別の1世帯当たり年間購入量を見ると、ビールは70歳以上を除き、世帯主の年齢が上がるにつれ、購入量が多くなっていることがわかります。一方、「発泡酒・ビール風アルコール飲料」は、40歳代で最も購入量が多くなっているものの、30歳代から60歳代までは大きな差はみられません(図3)。

図3 ビール及び「発泡酒・ビール風アルコール飲料」の世帯主の年齢階級別年間購入量(平成24年)

